

ふらぐ

この世界には
ロマンがある

マンガ
第3話!!

¥0
TAKE FREE

道の駅むなかつ
「宗像わかめんべい」



引換券が
当たる!!

詳しくはウラ面を
ご覧下さい。

筋肉パパ
は
好かれたい!!

お父さん

目からの
うろこ

多言語・多文化のまち
「むなかつ」を目指して

ひととまちとの交差点 Vol.15
ふらぐニュース

「地域を支える」
力持ちと出会う

筋肉パパーは 好かれたい!!

今日は
地域の
一斉清掃です



第3話

お父さん

“地域を支える”力持ちと出会う



キャラクター
紹介



久原すなお…娘に好かれたいお父さん。
正月に大社餅を食べすぎ、筋トレ強化中。



久原メイ…最近父親がうざったい中学
1年生。お隣のさくらちゃんと仲良し。



ママ…影は薄いが
キャラは濃ゆそう。



吉武 たけまる
近所の小学5年生



NPOセンター インフォメーション

地域の身近な 相談相手

自治会

自治会は防犯灯やごみ集積所の設置、清掃、維持管理など、安心してその地域に住むことができるように、地域住民の皆さんがお互いに協力しながら日常生活に関わりの深い活動に取り組んでいます。

自治会の
詳細はこちら



民生委員・児童委員

厚生労働大臣から委嘱された、まちの福祉を担うボランティアです。地域住民の身近な相談相手として、生活上の困りごと、医療や介護、子育ての不安などの相談に応じています。

民生委員・
児童委員の
詳細はこちら



地域包括支援センター

地域包括支援センターは介護・医療・保健・福祉などの側面から地域の高齢者を支える総合相談窓口です。宗像市では6つのセンターでそれぞれのコミュニティ地区を担当しており、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるようさまざまなサポートを行っています。

■利用時間：8:30～17:00
(月～金曜日。祝日、年末年始を除く)
■利用料：無料



市内地域包括
支援センター
一覧





親子で昼食作り(さんさん)



ワークショップに挑戦



おいしい食事をみんなで楽しむ

Vol.15

ひとまち交差点

宗像のまちで秘かに活動する魅力的な人。
その「ひと」が「まち」と出会い、交わるきっかけを、
ふらぐ編集部のアンドウが取材してきました。



ふらぐ編集部
アンドウ

経験豊かなスタッフ、大学生ボランティアとと

もに、子どもの居場所作りに取り組み清水さんに活動にける想いを伺いました。

アンドウ：長崎県対馬の「出身なのですね。いつ頃から宗像に住み始めたのでしょうか？」

清水さん：対馬の漁村育ちで、父は漁師でした。母は早朝から夜遅くまで働き、子どもの頃はよく仕事を手伝っていました。進学のために島を出て、30年ほど前から宗像に住んでいます。故郷の対馬と同じ玄界灘文化圏だったことが、宗像に住むことを決めた大きな理由です。

アンドウ：2017年に団体を結成し「子ども寺子屋カフェ」の活動を始めたきっかけは？」

清水さん：児童相談所の職員を長年していたスタッフから、ずっと子どもの貧困や格差などの問題について話を聞いていました。そんな中、自分たちには何かできることはないか考えたところ、子ども食堂という意見が上がって。当時、子ども食堂は全国的にも増えてきていました。だから私たちは食事をするだけじゃなく、デンマークなどでみられるワークショップを取り入れた特色のある子ども食堂を始めることにしたんです。

アンドウ：デンマークの教育を活動に取り入れたのはなぜですか？」

清水さん：私がデンマークの教育の研究者で、北欧のワークショップや、デンマークからゲストを呼んで国際交流の場を作ることができました。さらに

「宗像市人づくりでまちづくり事業補助金」などの補助金を活用することで、より質の高いものを子どもたちに伝えられるように。アートやダンス、演劇、音楽など、ワークショップを通して子どもが自分の可能性に気づき、世界を広げてもらいたい。学校の勉強がいまひとつでも「自分はやれる」と自己肯定感をもてる場にしたと考えています。

アンドウ：団体活動における大学生ボランティアの存在とは？」

清水さん：私の経験からですが、子どもは年齢が近ければ近いほど懐くんです。大人よりも自分に近い大学生の方が、話しやすくて悩みも相談しやすい。子どもにとって大学生のお兄さんやお姉さんは、「自分も将来こういう風になるんだ」というロールモデル。大学生の存在ですごく大きいんですよ。また、直接子どもたちに勉強を教えたり一緒に遊んだりしますので、大学生にとっても良い経験と教育の場になっています。

アンドウ：「子ども寺子屋カフェ」に加えて「家族ダイニング・さんさん」という活動もされていますよね。

清水さん：はい。どちらもみんなで食事をする時間を大切にしています。寺子屋カフェは、勉強とワークショップを行い、夕食を提供(※)。さんさんは、親子が集まって昼食を作り、一緒に食事。細かく係は決めず、買い出しから調理、片付け

清水 満さん

「子ども寺子屋カフェ」を運営する会 代表



長崎県対馬出身。予備校講師、九州歯科大学等の非常勤講師。大学では哲学、倫理学、デンマークの子ども論などを教える。2017年、元小学校教員や臨床心理士のスタッフとともに団体を結成し、子ども食堂の活動を始める。

までみんなで分け合っている。状況の中で何が必要か判断し、主体的に行動する力を育む。昔の地域にあった「よりあい」の現代版ですね。私が子どもの頃、桃の節句に美味しいものを重箱に詰め、村の人たちとワイワイおしゃべりしながらお弁当を食べる、そんな風習があつて。食事とは単に栄養をとるだけじゃなく、人とのふれあいや繋がり、エネルギーをみんなで補給する場なんだと、当時を思い出すたびに感じます。

アンドウ：清水さんがやりがいを感じる瞬間は？」

清水さん：子どもたちが楽しそうにしている様子。その姿を見るのが一番のやりがいです。子ども時代って人生でとても幸せな時なんです。私も時代って人生の楽しさが今の人生を支えてるところがありますから。子ども時代に子どもとして幸福だった。その体験を増やしていけば、子どもの人生は豊かになるし、当時の幸福感を何度も繰り返し思い出すことができるんです。

“あなたにとっての交差点は、どこですか？”

“みんなが楽しく食事をした子ども時代”

(※) 2022年4月より、夕食からおやつ提供に変更予定。





第26 づぶめ

産休から復帰した日々子育て
奮闘中のしぎょうが地域で
取り組む活動取材してきました。

寒さも忘れるあたたかい教室

雪もちらつく1月の教室開講日、時間になると「コンニチハ」という挨拶とともに続々と学習者が教室に入ってきた。入るなり、「寒かったね」「久しぶりねえ、元氣してた?」と指導者が笑顔で彼らを出迎える。受付表には学習者自らが名前を書き込むのが決まりだ。この日訪れた学習者は8人。国籍はスペイン、ニュージーランド、チリ、中国、コロンビア、セルビア、ベトナムと多国籍。年齢も20代から60代と幅広く、男女の偏りもない。むなかつた日本語教室は、日本語を母国語としない人に日本語を教える市民活動団体である。団体では先生を「指導者」、生徒を「学習者」と呼び、現在は12人の指導者で教室を開いている。にぎやかに学習が進められているところにお邪魔しまして、直接話を聞くことができた。

仲良く肩を寄せ合い、手元のプリントに描かれた絵とひらがなを照らし合わせて一生懸命復唱している2人の男性。教室に入ってくるときも一緒だったのでもともと友人なのかと思いきや、彼らはこの教室をきっかけに仲良くなったのだそう。国籍は違うが、お互いに「妻がスペイン語を話す」「日本に来て2年」「日本語がほとんど話せない」という共通点があり、意気投合。指導者2人が雑談を交えながら日本語を教えている。「2人ともすごく真面目でね、熱心なのよ」と目を細める指導者に、スマートフォンの翻訳機能で「先生はとても辛抱強い」と笑って話す学習者。教える側と学ぶ側がお互いに敬意を払っている様子に、なんともあたたかい気持ちになった。

毎週金曜日、メイトム宗像の1室は多国籍な人々の明るい声で活気づく。住み慣れた祖国を離れ、日本で生活する外国人の心のよりどころにもなっている、むなかつた日本語教室取材した。

多言語・多文化のまち “むなかつた”を目指して

日本文化に慣れ親しんで もらうための活動も

宗像市には700人以上の外国人が生活している。日本人と結婚し祖国を離れて暮らす人、仕事の都合で中長期的に滞在する人、あるいは技能実習生として短期的に技術を学びに来ている人など、彼らがここで生活する背景はさまざま。慣れない土地や言葉に不安を感じるとき、誰かにちよとした相談をしたいとき、外国人をあたたかく受け入れてくれる場所が、むなかつた日本語教室である。

教室が開講してから13年、ここで日本語を学んだ学習者は実に世界27カ国、130人以上にのぼる。インターネットや知人の紹介をもとに教室に訪れる学習者がほとんどで、毎週金曜、月500円の参加費で各々のペースで日本語を学ぶことができる。同様の教室は福岡県内に100ヶ所ほどあり、市民活動団体のほか、行政が事業主体となつて教室を運営している。むなかつた日本語教室では開催の時間帯が学習者の希望に沿わない場合、近隣の地域の教室を紹介するなど、他の教室と連携して柔軟に対応している。



ふらぐ編集部
しぎょう



テーブルからは笑い声が



指導者と学習者のみなさん

プロフィール むなかつた日本語教室

2009年、市内に住む主婦を中心に、福岡県国際交流センターとNPO法人女性エンパワーメントセンター福岡のサポートのもと開講。日本語・日本文化の体験学習の他、地域や学校などの情報交換や相談も受け付ける。

◎教室／第1～4金曜、10時～11時30分、メイトム宗像

◎連絡先／090-9565-9171 (担当:高)

◎2021～22年度の
スケジュールはこちら



◎Facebook
はこちら



新型コロナウイルスが流行する前は、日本語学習以外にも日本の文化に慣れ親しんでもらうために書道教室や料理教室、着物の着付け体験、救急救命講習会などを開催していた。小さい子どもをもつ学習者が参加しやすいように託児を手配し、福岡教育大学の学生にボランティアとして関わってもらったこともあった。現在は子どもたちが成長し、学習者層も変わったため託児はしなくなっているが、教室の運営はさまざまな機関に支えられてきた。

在留外国人の日本における現状

近年、街中や身近な地域に外国人の姿を見かけることは珍しくない。日本で生活する在留外国人の数は2000年には168万人だったが、2020年は290万人となり過去最高を記録。この数は今後も増加していくと予想されるが、外国人に対する制度やサポート体制は追いついていないところもある。教育や医療、災害時などの情報収集、また役所での煩雑な手続きは、日本人でも頭を悩ませる。これが外国人の場合はおおのことが大変である。彼らが生活する中で遭遇する日常のちよつとした困りごとの解決は、最終的に地域に委ねられている。

人とコミュニケーションを取れることの喜び

教室に来る外国人の日本語レベルはそれぞれで、習得する目的も人によってさまざま。しかし学習者の姿を見ると、彼らは日本語の習得はもちろんだが、人とのコミュニケーションを楽しむにきているように感じられた。教室に訪れる外

国人の中には複雑な事情や悩みを抱えている人も。日本の慣習や礼儀、学校や子育て、家庭での悩みなど、その種類も幅広い。指導者はその日の学習者の様子を見て、学習はあえてせず、じっくりと話を聞くこともあるという。

住み慣れた祖国を離れて生活する中で、言葉がうまく伝わらなかつたり、伝えられないことにもどかしさを感じたり、孤独を感じたりする人はいらばずだ。そんなときに一人の人として向き合い、耳を傾け、理解しようとしてくれる存在が身近な地域にいることは、何よりの心の支えとなるのではないだろうか。むなかた日本語教室はそんな外国人の心のよりどころとなっている。

言葉の壁の問題を抱える彼らがまちに溶け込むためのサポートが、今地域に求められている。しかし、それは難しく考える必要はないのかもしれない。同じまちの住人として、気持ちに寄り添って話を聞くことが彼らの心の支えになることを、日本語教室は教えてくれている。



テキストや学習ベースは人それぞれ



グループで学ぶテーブルも

Furagu News

宗像市人づくりでまちづくり事業補助金

子育て支援、環境保全、健康づくり、スポーツ振興、国際交流など各種分野で人材育成や協働によるまちづくりにつながる活動を支援する補助金です。

補助金の種類 自由提案型事業 / 行政テーマ型事業 / チャレンジ支援型事業

申請期間 4月1日(金)から4月15日(金)正午必着

対象 市内に活動拠点を有し、3人以上で構成する市民活動団体

提出先・問合せ先 宗像市市民活動・NPO センター(メイトム宗像内)
TEL:0940-36-0311(受付時間9時~17時、土日祝日は除く)

※申請を希望する団体は、事前にご相談ください。



二丁目小学校による冬休みイベントの様子

アンケートプレゼントコーナー

道の駅むなかたより「宗像わかめんべい(太)」をプレゼント!

右記QRコードからアンケートに答えていただいた人に抽選で「宗像わかめんべい」をプレゼント! 応募多数の場合は抽選とさせていただきます。当選者の発表は2022年4月下旬、賞品引換券の発送をもって代えさせていただきます。

引き換えは宗像市市民活動・NPOセンター(宗像市久原180メイトム宗像内)までお越しください。

※賞品引換の有効期限が2022年5月31日(火)までとなっております。ご了承ください。



応募締切は2022年4月15日(金)
アンケートはこちら!!



抽選で
2名

¥0 TAKE FREE



PENTAGON 宗像



ふらぐバックナンバーはこちらから!

<https://pentagon67.com>

QRコードをクリックするとページが開きます

